

ともじびの ゆらぎとかたろう ころろさやかに

Gagaku live
今宵さやか 1200年 平安の調べ

第2回 夏の十市の夏
が 雅 楽 演奏会
がく

◆夜6時30分から3回演奏します。

NO. 2 SUMMER
TOCHI SHINGU JINJYA
GAGAKU CONCERT

2007年7月15日(日)

雨の場合=十市保育園横の
公民館ホールで演奏会を開催

演奏：董的雅楽会



みたま迎え・揺らぐともじ火

ローソク／1セット 300円
子ども 100円

平成19年7月15日(日) 16時から献灯

宵宮「ともじび祭り」

十市の夏祭り実行委員会・伝統文化を楽しむ会

場所：南国市十市・新宮神社

黒潮ライン十市郵便局北・十市保育園上

TEL 088-865-5123 (詳細はHPをご覧ください)

第1回・演奏曲名

①「平調音取」(ひょうじょう ねとり)

平調は、雅楽の六調子の一つで、基音(きおん)が洋楽のE音に相当する雅楽の音階の名称です。音取というのは、曲の始まる前に奏される短い前奏曲で、次に奏する楽曲の属する調(しらべ)雰囲気をかもし出す為の音楽です。又、各楽器の音高、音程をととのえる意も含んだ、洋楽のチューニングを様式化した曲でもあります。本来は笙(しょう)、篳篥(ひちりき)、笛、鞆鼓(かっこ)、琵琶(びわ)、箏(そう)、の順で奏され、各「音頭(おんど)」首席奏者がががつとめます。只今から奏される管弦の曲目は平調に属するので、平調の音取を奏して、これから合奏する曲の調子の雰囲気をつくります。

②三臺塩急(さんだいえんのきゅう)

唐の高宗(こうそう)の後、則天皇后(そくてんこうごう)が作り、わが国には仁明朝(にんみょうちょう)の舞師、犬上是成が渡したものとされ、一名「天寿樂(てんじゅらく)」ともいわれています。

③老君子(ろうくんし)

この曲は唐の時代に男子誕生のときに演奏されたといわれ、又我が国では上皇の六十の御賀のとき、退出の音楽として演奏されたといわれています。

第2回・演奏曲名

①壹越調音取(いちこつちょうねとり)

壹越調は雅楽の六調子の一つで、基音(きおん)が洋楽のD音に相当する雅楽の音階の名称です。この管弦の曲目は、壹越調に属するので、壹越調の音取を奏して、これから合奏する曲の調子の雰囲気をつくります。

②賀殿急(かてんのきゅう)

仁明(にんみょう)天皇承和(しょうわ)年間(834~848)に遣唐判官(けんとうはんがん)・藤原貞敏(ふじわらのさだとし)が琵琶の譜により我が国に伝えたといわれ、嘉祥(かしょう)年間(848~850)和邇部太田磨(わにべおおたまろ)が嘉祥樂(かしょうらく)を作り、これを破(は)とし、賀殿(かてん)を急とする合成曲とした。舞は林真合(はやしのまくら)が作ったものといわれております。賀殿は道行(みちゆき)、破(は)、急(きゅう)より構成される舞楽ですが、本日その内、急のみ管弦にて奏します。

②胡飲酒破(こいんじゅのは)

胡国の人酔ってこの曲を奏したとも、また九世紀に日本で作られたものとも言われており、唐樂(とうがく)の古樂(こがく)に属する曲です。一名「酔胡樂(すいこがく)」「宴飲樂(えんいんらく)」といわれます。この賀殿急、胡飲酒破とも原曲は壹越調(いちこつちょう)ですが渡しものとして双調(そうじょう)に移調(いちよう)された曲です。

第3回・演奏曲名

①太食調音取(たいしきちょうねとり)

太食調は、雅楽の六調子の一つで、基音(きおん)が洋楽のE音に相当する雅楽の音階の名称です。只今から奏される管弦の曲目は、太食調に属するので、太食調の音取を奏して、これから合奏する曲の調子の雰囲気をつくります。

②合歡塩(がつかえん)

「楽家録(がつかろく)」によると、「合歡の樂は、五音(壹越・平調・双詞・黄鐘・盤鐘)が調い、歡喜の声を備えている。故に合歡塩と名付ける」とされています。又、舞樂(太平樂)の時に「急」の舞として奏されます。

③拔頭(ばとう)

天平八年(736)に林邑(りんゆう)の僧・仏哲(ぶつてつ)により我が国に伝えられたもので、猛獸に倒れた胡人(こじん)の子が、山野を探し求め遂に親の仇を討ち、歡喜する有様を表した曲です。

第2回 新宮「ともしび祭り」共催
十市の夏 雅 楽 演奏会

新宮神社では、10年前から十市の夏祭りを新旧住民の方々が睦み楽しい思い出の残る祭りへと努めてまいりました。あとむ幼稚園、十市保育園、十市小学校の参加協力で、おねり太鼓や子ども神輿、太鼓や踊り、子ども相撲と、境内に溢れんばかりの人々が、夏の暑い思い出を体験。喜ばれております。

でも、この日は「宵宮祭り」なのに、宵宮の火の祭りが途絶え、ちょっと寂しかった。昨年、鎮守の杜を悩ます「竹」に注目。火の祭りを復活しようと竹を切り数百個のともし火を境内に献灯しました。宵闇の深まり、ともし火のゆらぐ境内に、そっと雅楽を流す予定でした。CDより生演奏で行きませんかと、薫的雅楽会・主宰の中地さんの声に甘え、ろくな準備もしないまま当日を迎えました。

宵闇が徐々に深くなりともし火が漁り火のようにゆれ、雅楽の音が鎮守の杜に浸み通ってゆきました。浴衣の方も、汗だらだらで、かけずり回っていた奉仕の人々も、溪谷の清流にたたくみ、涼風に包まれた世界へ。引き込まれてゆきます。ともし火のゆらぎにご先祖のみたまとかたるのかのように、素敵な笑顔がローソクの火で、ほのかにうかんだり、きえたりしておりました。

今年は、少しばかり会場も整えました。ともし火に包まれ、縁台にくつろぎ、宵闇の雅楽ライブをお楽しみください。きっと素敵な、忘れ得ぬ夏の夜の思い出となることでしょう。

演奏は、「薫的雅楽会」。主宰・中地英彰（薫的神社禰宜、東京で小野雅楽会に属し、宮内庁式部職楽部の方々から直接指導を）さん、若宮八幡宮権禰宜・福田一彰さん、高知県護国神社権禰宜・大岡宜徳さん、ほか数名の会員が参加予定です。皆様のお越しをお待ちしております。

雅楽ってなに……!?

「雅楽」とは、……今から1300年前の西暦701年、「大宝律令」完成により「雅楽寮（うたまいのつかさ）」がつけられたとある。「雅楽」は、「雅正の楽舞」の意味です。それから雅楽は1200年以上、日本人の心を捉えて現在の宮内庁式部職楽部の時代まで受け継がれてきました。当時、遠くペルシャ、アフガニスタンからシルクロードをを経て、北は朝鮮半島から、また東南アジアから伝わった管弦・舞楽が、日本人の感性によって生まれ、平安中期頃にはほぼ現在の形に完成したようです。宮中・全国の神社・寺院で演奏れ、親しまれています。現存する世界最古の合奏音楽です。905年から始まり967年施行された延喜式（律令の施行細目）には、神社神道の神職の祭服等が記されていますが、以来現在まで変わっていません。

日本では、何処にでも“世界遺産”が、ごく普通の生活の中いっぱいあることを知っていましたかー。

今、雅楽を楽しんでいる、鎮守の杜は、2つの古墳が接した丘陵上です。「雅楽寮」が生まれる約20年前、白鳳の南海地震が此の地を大きく変え、それは日本の誕生と関わる、謎とロマンに包まれた十市が遺され、あるいは封印されたのか!? 鳥になって十市の上空を飛び、俯瞰してください。????……? 口伝・禁忌・タブーに納得するかもしれません!?

「雅楽」の演目には、①管弦（かんげん）、②舞楽（ぶがく）、③歌曲（かきよく）、④国風歌舞（くにぶりのうたまい）に大きく分けられています。

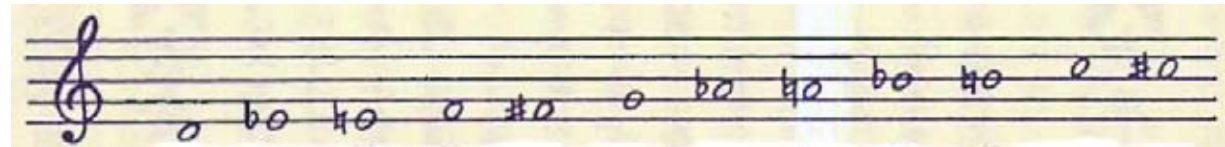
①管弦（かんげん）＝楽器だけによる合奏形式。 管楽器・弦楽器・打楽器による合奏です。洋楽が日本に入ってきたときオーケストラを管弦楽と訳しています。雅楽の管弦の演奏・演目には、外来の音楽を起源とするモノが多い。①唐楽（とうがく）：中国、ベトナム、インド、ペルシャなどからの渡来音楽から生まれた曲。②高麗楽（こまがく）：朝鮮、渤海（原中国・東北地方）からの伝来音楽をもとに生まれた曲。この2つの流れがあります。

②舞楽（ぶがく）＝合奏と舞が一体となつた形式。 管弦の場合と同じく「唐舞」と「高麗舞」2があるが、弦楽器は使われない。唐舞を「左方（さほう）」、「高麗舞を「右方（うほう）」と呼ぶ。舞楽での演奏は同じ曲でも、テンポや拍子が違っている。舞には大きく3つに分類でき、複数で優雅な衣装を着ける「平舞（ひらまい）」、華麗な衣装で勇壮に舞う「走舞（はしりまい）」、子どもが舞う「童舞（わらべまい）」などがある。

③歌曲（かきよく）＝和歌をもとに作曲された「催馬楽」、漢詩をもとに作られた「朗詠」などが、平安時代に日本で作られた。

④国風歌舞（くにぶりのうたまい）＝日本古来の歌や舞。「神楽歌（かぐらうた）」、「久米歌（くめうた）」、「東遊（あずまあそび）」、「大和歌（やまとうた）」、「大歌（おおうた）」、「誄歌（るいか）」、「悠紀・主基（ゆき・すき）」などがある。

日本の音名・十二律（表）



(音名)
 上無 (かみむ)
 神仙 (しんせん)
 盤渉 (ばんしき)
 鸞鏡 (らんけい)
 黄色 (おうしき)
 鳧鐘 (ふしやう)
 双調 (そうじやう)
 下無 (しもむ)
 勝絶 (しょうせつ)
 平調 (ひやうじやう)
 断金 (たんぎん)
 吉越 (いちごう)



taiko



hichiriki



shou



左から
ryuteki
komabue
kagurabue



biwa



kakko



sannotuzumi

律旋 (りつせん)

平調 (ひやうじやう) E (ミ)

黄鐘調 (おうしきじやう) A (ラ)

盤渉調 (ばんしきじやう) B (シ)

吉越調 (いちごうじやう) D (レ)

呂旋 (ろせん)

双調 (そうじやう) G (ソ)

太食調 (たいしきじやう) E (ミ)

◆雅楽の音律：音律は1オクターブ12音構成。12音は、中国に紀元前1000年にあったという三分損益法で12音が算出されている。基準音はA(ラ)が430Hzで調律されている。

◆雅楽の調子：基準音は、現在6種類の調子 (Key) が使われている。